

平成24年度

# 定時総会を開催

去る5月21日、平成24年度定時総会を明治記念館（港区元赤坂）にて開催しました。

当日は、平成23年度事業報告並びに収支決算、平成24年度事業計画（案）並びに収支予算（案）についてご承認いただきました。

また、議事終了後、優良技術者表彰式（30頁）を執り行いましたので、その概要を報告します。

## 平成23年度事業報告並びに同収支決算について

### ■■■■■■■■■■ 平成23年度事業報告 ■■■■■■■■■■

#### —はじめに

平成23年度は、技士会単独の講習会を9つのテーマで開催したほか、事業の柱の一つとして、(社)東京建設業協会と共同により、若年技術者に重点を置いた研修会を7回実施いたしました。

また、広く都民や学生の方々に土木技術者の役割と社会資本整備の重要性を理解していただくため、「一般向けの土木施設見学会」を開催し、昨年度に続いて「まちづくり展」を共催いたしました。

さらに、会員会社が施工する鉄道トンネル工事現場の2ヶ所を視察し、土木技術者の技術力向上の支援に努めました。

このほか、見聞を広めるために異業種他分野の施設見学の一環として、船での東京の橋の視察をはじめ、機関誌「DOBOKU 技士会 東京」を発行しました。

#### —事業概要

#### 1. 技術力の維持・向上に関する事業

##### (1) 各種研修会・講習会の実施

- ① 若年技術者のための研修会（共催）
  - 新入社員研修会
  - 若手技術者のためのコミュニケーション能力強化研修会
  - 新入社員半年フォロー研修会
  - 若手社員（3～5年次）フォロー研修会

##### ② 直前受験準備講習会（1級土木施工管理技術検定学科試験）

- 2日間コース
- 学科試験合格者に実地試験問題集を配付（講習会受講者のうち会員のみ）

##### ③ 基礎的な技能習得のための講習会

- 仮設構造物（土留め工）の設計講習会
- コンクリート施工技術講習会
- 環境管理講習会
- 安全管理講習会

##### ④ 総合的な技能習得のための講習会

- 現場運営に生かすマネジメント能力実践講習会
- 現場管理スキルアップ講習会
- 現場代理人の折衝力強化研修会（共催）
- 救命講習会
- 建設業のCSRと現場のリスク管理講習会

##### ⑤ 経営者向け研修会（共催）

- 建設業のための内部統制とコンプライアンスセミナー

##### (2) 土木工事現場視察の実施

- 小田急線代々木上原～梅ヶ丘駅間連続立体交差化工事
- 有楽町線小竹向原～千川駅間連絡線設置工事

- (3) 異業種他分野等各種施設の視察
  - J A X A地球観測センター見学会
  - 船による東京の橋めぐり

## 2. 広報事業

- (1) まちづくり展の共催等一般向け広報活動
  - まちづくり展（共催）
  - 一般向け施設見学会（首都圏外郭放水路ほか）

- (2) 機関誌「DOBOKU 技士会 東京」の発行
- (3) 土木施工管理に関する情報収集及び提供

## 3. 調査研究

- (1) 事業運営に必要な各種調査の実施

## 4. 表彰

- (1) 事業運営に必要な各種調査の実施

# [平成23年度収支計算書]

### 収入の部

(単位：円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大 科 目			
会費収入	32,990,000	33,256,600	△ 266,600
入会金収入	200,000	143,000	57,000
事業収入	3,000,000	3,121,000	△ 121,000
雑収入	100,000	26,691	73,309
当期収入合計(A)	36,290,000	36,547,291	△ 257,291
前期繰越収支差額	12,170,000	12,351,360	△ 181,360
収入合計(B)	48,460,000	48,898,651	△ 438,651

(△印は収入増)

### 支出の部

(単位：円)

勘定科目	予算額	決算額	差異
大 科 目			
事業費	27,390,000	25,862,970	1,527,030
管理費	7,900,000	7,755,962	144,038
引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予備費	3,000,000	0	3,000,000
当期支出合計(C)	40,290,000	35,618,932	4,671,068
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,000,000	928,359	△ 4,928,359
次期繰越収支差額(B)-(C)	8,170,000	13,279,719	△ 5,109,719

(C)－積立預金支出＝(ア)

34,618,932

(A)－(ア)＝実質的な当期収支差額

1,928,359

## 平成24年度事業計画並びに同収支予算について

### ■■■■■■■■■■ 平成24年度事業計画 ■■■■■■■■■■

#### ——基本方針

近年、台風、豪雪、地震などの自然災害が頻発しています。とくに昨年3月に東日本を襲った大震災では膨大な被害が発生し、被災地では復旧・復興に向けて懸命な努力が続けられております。原発事故も含めて、一日も早い収束を願うものです。

一方、こうした災害現場にいち早く駆けつけ、応急・復旧作業にあたった建設業の役割や社会資本整備の重要性が昨今再認識されており、とりわけ現場を担う土木技術者への評価が高まりを見せしています。

また、今後増大する老朽化した土木施設の更新・維持・管理などには、優秀な技術者の存在が不可欠です。

しかしながら、若年者の建設業離れにより、高齢化が進展していることから、このままでは建設生産を支える担い手が不足するばかりか、技術の承継が懸念されているのが現状です。

現在、優秀な技術者の確保・育成とその評価を効果的に推進することなどを目的とした技術者制度の見直しが進められているところです。社会的な評価の高まりと相まって、多くの若者が土木の仕事に対して希望をもって入職してくることを期待したいと思います。

このようなことから、当会では、広く都民や学

生の方々に土木技術者の役割と社会資本整備の重要性を理解していただくため、昨年度に続いて関係機関・団体と連携して「まちづくり展」や「一般向け見学会」など、各種イベントを開催するとともに、各種講習会や見学会を充実し、土木技術者に対する情報の提供やスキルアップの支援に努め、事業を展開してまいります。

また、本年度は技士会事業に関するアンケートを実施し、より一層会員ニーズを反映した事業の策定に努めてまいります。

### —事業計画

#### 1. 技術力向上に関する支援事業

- (1) 各種研修会・講習会等の実施
  - ① 若年技術者のための研修会（共催）
  - ② 1級土木施工管理技士資格取得のための支援
    - 直前受験準備講習会
    - 学科試験合格者への実地試験問題集配付（講習会受講者対象）
  - ③ 基礎的な技能習得のための支援
  - ④ 総合的な技能習得のための支援
  - ⑤ 経営者のための支援（共催）
- (2) 土木工事現場視察の実施
- (3) 異業種他分野等各種施設の視察

#### 2. 広報事業

- (1) 「まちづくり展」の共催等一般向けの広報活動
- (2) 機関誌「DOBOKU 技士会東京」の発行
- (3) 会員名簿の発行
- (4) 一般向け見学会の開催
- (5) 土木施工管理に関する情報収集及び提供

#### 3. 調査研究

- (1) 事業運営に必要な各種調査の実施

#### 4. 表彰

- (1) 優良技術者表彰の実施
- (2) 各種表彰候補者の推薦

#### 5. 連絡協議

- (1) 関係行政機関・関係団体との連絡協議

#### 6. 会 議

- (1) 総会
  - ① 定時総会／②臨時総会

- (2) 理事会

- (3) 監事会

#### 7. 委員会

- (1) 総務委員会

- (2) 事業運営委員会
  - ① 講習会グループ会議
  - ② 現場視察グループ会議
  - ③ 情報・広報グループ会議

## [平成24年度収支予算書]

### 収入の部

(単位：円)

勘定科目	24年度予算額	23年度予算額	増 減
大 科 目			
会 費 収 入	33,990,000	32,990,000	1,000,000
入 会 金 収 入	200,000	200,000	0
事 業 収 入	3,600,000	3,000,000	600,000
雑 収 入	100,000	100,000	0
当期収入合計(A)	37,890,000	36,290,000	1,600,000
前期繰越収支差額	13,260,000	12,170,000	
収 入 合 計 (B)	51,150,000	48,460,000	

### 支出の部

(単位：円)

勘定科目	24年度予算額	23年度予算額	増 減
大 科 目			
事 業 費	28,400,000	27,390,000	1,010,000
管 理 費	8,490,000	7,900,000	590,000
引当預金支出	1,000,000	1,000,000	0
積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
予 備 費	3,000,000	3,000,000	0
当期支出合計(C)	41,890,000	40,290,000	1,600,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,000,000	△ 4,000,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	9,260,000	8,170,000	

